

# 平成 26 年度事業計画書

## はじめに

平成 26 年度、大阪市博物館協会は設立 5 年目、公益財団法人としては 3 年目を迎える。また、大阪市から受託している博物館・美術館 5 館の管理運営は、平成 25 年度までの 4 年間の指定管理期間を終え、改めて地方独立行政法人化にあわせて、平成 26 年度 1 年間の指定管理者として選定された。

当協会においては各種の事業を施設ごとに、また相互に連携しながら実施しており、平成 26 年度についても次々頁以降の事業を予定しているが、ここでは公益財団法人への移行を認定された「協会事業の位置付け」と「協会経営計画」を再確認するとともに、協会の「平成 26 年度の取組み」について記しておきたい。

### 1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成 24 年 4 月から公益財団法人として事業を実施している。

#### (1) 公益目的事業

この事業については次の 9 事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

#### (2) 収益事業等

##### ① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

##### ② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

### 2. 協会の経営計画

経営計画は平成 23 年 9 月に策定され、「団体のビジョン」「経営目標」等が定められている。

#### (1) 団体のビジョン

協会の設置目的を実現するため、次の 4 つの基本方針の下で活動することとしている。

- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出する。
- ② 都市大阪にふさわしい、さまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめざす。
- ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
- ④ 30 年を越える遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

## (2) 経営目標

博物館 5 施設の指定管理者として平成 26 年度以降も引き続き指名されることをめざし、上記のビジョンに沿って、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 カ年の目標を 5 点掲げて活動することとしている。

目標 1 指定管理 5 施設全体の常設展入館者数の増加

[27 年度目標] 2,160 千人 [24 年度実績] 2,124 千人

目標 2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

[目標] 年間で 15 本程度 [24 年度実績] 20 本

目標 3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

[目標] 年間 400 回・参加 7 万人 [24 年度実績] 532 回、7.5 万人

目標 4 指定管理 5 施設全体での学校利用の促進

[27 年度目標] 延べ 3,300 校 [24 年度実績] 延べ 2,724 校

目標 5 当協会所管の各館並びに（公財）大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開 [目標] 年間 80 件 [24 年度実績] 188 件

## 3. 平成 26 年度の取組み

- ・大阪府市統合本部において本年 1 月に決定された「博物館施設の円滑な地方独法化に向けて」（平成 27 年 4 月に市の 6 施設を対象として、市単独で地独法人を設立、など）や、大阪市経済戦略局の「平成 26 年度運営方針（案）」を踏まえ今後の事業のあり方を検討する。
- ・上記経営改革の「(1) 団体のビジョン」を基本とし、とりわけ「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する」ため、博物館施設や文化財事業の発信力を高める。
- ・「大坂の陣 400 年」を記念して、府市と府下自治体、マスコミ・交通などの民間事業者によるプロジェクトで平成 26・27 年の 2 年間に実施される「大坂の陣 400 年天下一祭」には、協会として積極的に参画し協会内外での連携事業実施に取り組む。
- ・学習施設としての博物館群や大阪文化財研究所が連携し、郷土大阪に対する「愛着」や「誇り」を育むため、「学校の博物館利用促進」や「学校教育支援」に取り組む。
- ・協会は平成 22 年度から 3 年間外部委員による点検評価に取組み、とりわけ平成 24 年度には総合評価を実施した。平成 26 年度には改めてその後の措置状況を踏まえ、外部委員による事業の点検評価を行い公表する。

## I. 大阪文化財研究所事業

昭和 54（1979）年の設立以来、蓄積した知識と経験をもとに大阪市域の遺跡を発掘調査し、報告書を作成するとともに、遺跡や出土資料を良好に管理して地域の文化資産として活用する。また、考古学・歴史学・地質学・建築学・保存科学等多様な分野の学芸員が資料や情報を収集し、国内外の研究機関と交流を深め、大阪の歴史と文化財の研究を行う。

これらの成果をもとに、博物館・美術館、地域団体等と連携し、出土資料の展示、講演会や講座、ワークショップ等の体験学習、刊行物やインターネットによる情報の提供等、文化財に触れるさまざまな機会を設けることで文化財の公開・教育普及に努め、大阪市域の文化財に関する資料の保存と保管・活用のための拠点づくりを目指す。

また、東日本大震災の復旧・復興支援の一環として埋蔵文化財の調査と保護のため、学芸員を前年度に引き続き福島県に派遣する。

### 1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

#### (1) 文化財調査受託事業

発掘調査では、難波宮跡・大坂城跡をはじめとする市内各地の公共事業や民間開発に伴う緊急発掘調査等 50 件に速やかに対応する。

報告書作成では難波宮跡・大坂城跡、中之島蔵屋敷跡等 15 件のほか、大阪市内北部方面（四天王寺旧境内遺跡等）・加美遺跡の報告書を作成して調査成果の公表に努める。

#### (2) 保存処理・分析事業

市内遺跡出土の文化財を保存し、博物館展示等の活用に供するほか、他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を積極的に受託する。

#### (3) 文化財関連施設の管理事業

埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理等、出土品を良好な状態で保存・管理するとともに、地域の文化資産として普及事業を通じた活用を図る。

### 2. 保存科学分析技術の開発と文化財資料への応用

金属製品・木製品等、市内発掘出土品の保存処理・理化学的な分析を行う。当研究所開発によるトレハロース含浸処理法に対して、より高い精度を求めて継続的に研究を推し進めると共に、木製品の保存処理を実施して行く。昨年 3 度海外で研究発表したトレハロース含浸処理法は国内外から高い注目を集めていることから、本年は学会発表に加えて大阪・鹿児島・韓国慶州での研究会を開催し、普及に努める予定である。

また、保存処理後の資料は博物館・美術館の展示等で活用し、文化財の公開に関する事業を積極的に実施する。

### 3. 文化財に関する研究

個々の学芸員による文化財や考古学、歴史学に関する研究を行い、科学研究費補助金をは

はじめとする外部資金の獲得に努め、講演会や研究紀要の刊行等で成果を公表する。

基盤研究の一つでは、地理情報システム（GIS）を使った、市内各地の発掘調査で得られたデータの標準化と蓄積により、自然環境の復元と遺跡の時空間的な構造と特性の解明を進めた。その成果を日々の調査研究に反映させるとともに、研究紀要や情報誌、ホームページのほか、大阪歴史博物館における展示に活用することで効果的に公表する。

また、韓国の財団法人嶺南文化財研究院をはじめとする、東アジア・ヨーロッパ等の海外研究機関や研究者との国際交流を進め、大阪の歴史と文化財の研究に資する。

#### 4. 教育・普及事業

##### (1) 発掘調査による資料の活用

発掘調査の成果を直接多くの市民に公開すべく、大阪市教育委員会と協力し現地説明会を積極的に開催するとともに、出土品や写真、図等を大阪歴史博物館の速報展示や常設展示内での陳列、年度ごとの調査成果を総覧する特集展示「新発見！なにわの考古学」展等で活用する。また、大阪市立の博物館・美術館群や各地の文化財関連施設、博物館・美術館の展示へ協力するほか、出版社等への資料提供も行う。

また、遺跡に隣接して出土品を展示している各地域の公共・民間施設（市内30箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）への協力や、依頼による新規展示施設の企画・設置を行う等、発掘調査の成果を地域に密着して公開し、地元意識の醸成や地域振興に貢献する。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に随時、対応する。

##### (2) 講座等による生涯学習および人材育成

大阪歴史博物館での「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る講演会」をはじめとする講座や催しを大阪市立の博物館・美術館群と協力して実施する。また、「平野区歴史講座（平野区民センター）」「いちょう大学（大阪市教育振興公社）」「平野住民大学講座（平野区画整理記念会館）」「すみよし北講座（市民交流センターすみよし北）」等の他団体が開催する市民向け生涯学習事業に対し、企画・講師派遣で協力する。

そのほか、大学や国内外の文化財研究機関からの要請に応じて講師を派遣し、人材育成や技術指導に協力する。

##### (3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示

大阪市の博物館・美術館群及び地域の団体と連携して、「難波宮フェスタ」等の市内の遺跡と出土品を活用した体験イベントや見学会を行う。また、各区の市民団体と連携して講座・展示の企画制作を行い、「中央区民まつり」・「長原・六反古代市」等へ出張展示やワークショップで参加する等、地域活動に協力する。

##### (4) 体験活動

大阪歴史博物館と協力して、史跡難波宮跡での小学生の体験発掘に代わり、遺跡見学や考古学に関する体験学習を実施する。

##### (5) 情報発信

情報誌『葦火』（隔月）等の図書の刊行・頒布を行い、インターネット上にある当研究所

ホームページや、大阪市の博物館・美術館群、地域団体と共同で制作した「なにわ まナビガイド（文化庁補助金事業で開発）」等を活用して、文化財に関する各種情報や行事の発信に努める。

(6) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書及びほかの関連図書等の収集・管理に努め、他団体や個人の活用に供する。

(7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成 20 年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を開催する。

## 5. 大阪市の博物館・美術館との連携

(1) 博物館協会内連携による共催・協力

大阪歴史博物館において開催予定の特別展「大阪遺産 難波宮一遺跡を読み解くキーワード」・特集展示「新発見！なにわの考古学 2014」や「大坂の陣 400 年天下一祭」関連事業をはじめ、考古学と文化財に関する事業で共催および調査・企画・出品等の協力をする。

(2) そのほか

調査・研究、展示、教育普及、広報において、協会が運営する大阪市の博物館・美術館をはじめとする関係機関との連携を積極的に進め、文化財に関する事業及び博物館・美術館活動の活性化に努める。

## 6. (仮称) 文化財保存センター

当公益法人の「資産取得資金」の計画に則し、文化財等の保存環境の改善と、各種資料に対するアクセシビリティの向上のため、大阪文化財研究所が所蔵する報告書等の資料の保管公開と出土品の保存を目的とする、文化財保存センターの設置を目指す。

## 7. 東北復興支援

文化庁および東北 3 県から全国に向けた、埋蔵文化財発掘調査のための専門職員派遣要請に応じ、引き続き学芸員 1 名を公益財団法人福島県文化振興財団に派遣する。

## II. 大阪歴史博物館事業

大阪歴史博物館では、大阪の歴史と文化を国内外に発信するとともに、郷土大阪に親しみをもち理解を深めるため、大阪市域の歴史や文化を対象とした展示や事業を中心としながらも、より広域な視点から大阪府域をカバーする歴史系総合博物館としての役割も果たすことができるよう、行政区域を越えた埋蔵文化財の展示や、大阪府の他の博物館等との事業連携のあり方を模索していく。また博物館への関心がより高まるよう、特別展や教育普及事業に新しい展開を図るとともに、外国からの来館者に対応するための多言語化を推進する。

### 1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集を行う。また新規に収蔵した資料については燻蒸を実施し、最適な環境のもとで資料の保管・管理を行う。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

12万点を超える館蔵品や大阪市内の発掘調査で見つかった埋蔵文化財を活用し、計画的に展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施する。

#### (2) 特集展示

館蔵品や最新の埋蔵文化財の調査結果にもとづき、地域やジャンル、速報性などを考慮し、大阪の歴史と文化に関わるテーマで年間7本の特集展示を開催し、リピーターの増加・定着を図る。平成26年度については、恒例の展示となっている「新発見！なにわの考古学」のほか、「なにわと朝鮮半島」、「意匠を読み解く 小袖の魅力」、「河内平野の弥生王墓」、「両替商 銭屋佐兵衛」、「月岡雪鼎とその一門一大坂の肉筆浮世絵」、「大阪相撲れきはく場所」を予定している。

#### (3) 特別展示

##### ①特別展「上方の浮世絵—大坂・京都の粋と技—」 [平成26年4月19日～6月1日]

日本独自の文化である浮世絵は、江戸だけではなく大坂や京都でも制作されており、海外では「Osaka Prints」と呼ばれ、独自性の高い芸術として評価されている。近年、上方浮世絵の研究は、世界的規模での調査研究が飛躍的に進んでいる。本展覧会ではその研究成果をふまえ、初公開の作品も含めた国内作品を中心に上方絵の全貌を紹介する。

##### ②特別展「大阪遺産 難波宮—遺跡を読み解くキーワード」

[平成26年6月21日～8月18日]

大阪城のある上町台地北端は、飛鳥時代から奈良時代にかけて2度にわたって難波宮が造営され、都市大阪の歴史の原点ともいべき場所である。平成26年は難波宮の第1次発掘調査が開始されてから60周年となる記念すべき年にあたる。本展覧会では、難波宮の発掘調査で見つかった出土遺物や山根徳太郎氏旧所蔵資料などをもとに、長年にわたる難波宮の発掘の歴史と調査成果を、いくつかのキーワードから読み解きながら紹介する。

（「大坂の陣400年天下一祭」参加予定事業）

### ③特別展「村野藤吾—やわらかな建築とインテリア—」〔平成26年9月3日～10月13日〕

建築家・村野藤吾(1891-1984)は、大阪で活躍した日本を代表する建築家のひとりで、文化勲章を受章したことでも知られている。旧そごう大阪店や新歌舞伎座、梅田吸気塔、東京の日生劇場など、彼の作品の特徴はユニークな建築造形ときめ細かな細部意匠にある。本展覧会では図面・模型・家具などを通して、村野藤吾の細部にこだわったやわらかな作品づくりの秘密に迫る。

### ④特別展「お守り刀展覧会×二次元VS日本刀」 〔平成26年11月1日～12月23日〕

お守り刀展覧会は、現代の刀匠たちが製作した新作刀とその外装の中から、審査会で選ばれた優品を集めた展覧会である。最愛の人を守る「お守り刀」の展示を通して、伝統技術の保持の重要性と未来への継承を考える。また併催の「二次元VS日本刀」は、現代刀匠と著名な小説家やイラストレーターなどがコラボレーションした実験的な日本刀展示として企画したものである。

## 3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、研究の内容をより充実したものとするため、科学研究費補助金をはじめとする各種の学術研究補助金など外部資金の獲得にも努める。

## 4. 教育・普及事業

学芸員による「なにわ歴博講座」や「古文書講座」、外部講師による話題性のあるテーマでの講演会やシンポジウム、大阪市内の遺跡をまわる見学会、子ども向け体験教室等を実施し、市民や子どもが大阪の歴史と文化を学ぶ機会を提供する。また教育センターや科目別研究会とも連携し、学校団体による利用促進を図る。

## 5. 学校・市民等との連携

大阪文化財研究所との連携による考古学の体験学習など協会が運営する各館・所はもとより、講師派遣等をおして学校との連携を図るとともに、教育センターとの共催による教員研修の開催や、大学生の博物館実習の受け入れをおこなう。



また、博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域の NPO 法人等との共催事業をとおして市民団体との連携を図る。

## 6. 情報発信、広報宣伝

ホームページから『年報』や『研究紀要』のダウンロードを可能とし、年間の事業や研究成果の情報発信を行う。さらに歴博カレンダー(季刊)・ポスター・チラシなど、従来からの印刷媒体に止まらず、ブログなどの外部サービスも積極的に活用し、幅広くきめ細かな情報発信に努める。

## 7. 来館者サービスの向上

外国人来館者に対応するため展示解説等の多言語化を進めるとともに、利用者の多い英語による展示予定表の作成や、特別展の詳しい内容をホームページ等をおして提供する。また音声ガイドの貸出料金を見直し、利用促進を図る。スタンプカードの実施、レストランとの提携など、来館者のニーズに応じたサービスの向上にも引き続き取り組み、博物館の利用促進を図る。

## 8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理と運営に取り組む。

### Ⅲ. 大阪市立自然史博物館事業

大阪市立自然史博物館は、地元大阪を中心とした自然に関する展示や観察会などを通じて、市民に自然をよく知り学んでもらうためのさまざまな機会を提供し、共に自然と人間のよりよい未来を考えていくことを目的としている。この基本的な考え方のもと、平成26年度は以下の項目に重点的に取り組んでいく。

- ・ 市民参加による調査活動「プロジェクトU；大阪を中心とした都市の自然に関する調査」の最終年度の調査を実施し、まとめを行う。
- ・ 調査の成果をまとめて特別展「都市の自然(仮称)」として開催するとともに、展示作成も含めて市民参加型で推進する。

#### 1. 資料の収集、保管事業

動物・昆虫・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国更には必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス45度の低温薫蒸を基本とし、必要に応じて薬品薫蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、これまでも取り組んできた標本情報のデジタル化や公開を今後も進めるとともに、収蔵資料目録を刊行する。

東日本大震災で被災した博物館資料の「標本レスキュー」事業については、引き続きこれまでの活動の総括を行い、今後に向けた課題を検討する。

#### 2. 展示事業

##### (1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。

そして、中長期的な視野に立った系統的な展示更新の検討を進める。

##### (2) 特別展示

###### ① 特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス～ララミディア大陸での攻防～」

(大阪市立自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画)

恐竜時代の最後・後期白亜紀に北アメリカ大陸の東西の分断によって出現したララミディア大陸をクローズアップすることで、そこを舞台に多様化し、繁栄していった植物食恐竜トリケラトプスの仲間の起源と進化の謎に迫る。

中国のインロン、ララミディア大陸のズニケラトプスやカスモサウルスなど、トリケラトプスの仲間の進化史を飾った恐竜たち、および同時代にともに進化してきたティラノサウルスをはじめとする肉食恐竜たちとの対峙を、全身骨格展示によりダイナミック

に展示する。

<期 間> 平成26年3月21日（金・祝）～ 平成26年5月25日（日）

<展示コーナー>

- ・群雄割拠！トリケラトプスの仲間が生きた時代
- ・起源と放散
- ・ララミディア大陸への進出と自己主張
- ・ララミディア大陸・戦国時代
- ・トリケラトプスの天下統一

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社、中央宣伝企画

## ② 特別展「都市の自然(仮称)」

人が作りだした都市という環境には、多くの人が思う以上に多くの生きものが暮らしている。ツバメやタヌキから、ハチ、セミ、雑草まで。家屋に棲み着くゴキブリまで含めて、大阪を中心に都市に暮らす生きものとその暮らしを紹介する。もっとも身近な都市から、自然を見つめ、自然との付き合い方を考える機会とする。

<会 期> 平成26年7月19日（土）～10月13日（日）（予定）

## 3. 調査・研究事業

自然史博物館で取り組むプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、「プロジェクトU；大阪を中心とした都市の自然に関する調査」を継続して実施する。

科研費基盤研究A「自然史系博物館等の広域連携による『瀬戸内海の自然探究』事業の実践と連携効果の実証」の計画に基づき、瀬戸内海沿岸各地での調査および普及教育活動に、それぞれの地域の関連施設と連携しつつ取り組む。

調査・研究の成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。

## 4. 普及教育事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・ジュニア学芸員になろう！・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「自由研究相談会」、「標本同定会」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。新たなメニューを開発するなど事業の充実に努める。

## 5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、TMネットワーク（自然史博物館における教員と博物館のネットワーク）による情報提供等で学校教育を支援する。

「教員のための博物館の日」を8月に実施し、博物館が進める学校教育支援事業の理解を

深めてもらう。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業に協力する。自然史科学関連のNPO法人などが実施する博物館連携に関する各種事業に協力する。

併設施設との連携についても、積極的に進める。当館のネイチャースクエア「大阪の自然誌」がある「花と緑と自然の情報センター」は、「長居植物園」との複合施設である。そして、両施設は隣接し、互いの相乗的効果を生かしていくことを大切にしている。毎月の相互連絡会を開催し、今後とも「長居植物園」の事業と密接な連携・協力を図っていく。

西日本自然史系博物館ネットワークの事務局館として、館相互の連携事業、研修活動、東日本大震災レスキュー活動の総括などを推進する。

## 6. 情報発信、広報宣伝

常設展の入館者増を図るため、地下鉄車内の最寄り駅案内放送を取り入れるとともに、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、当館のホームページを充実することにより年間を通じた利用促進を図る。

マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝についても積極的に行う。

また、月例のイベントリリース、特別展などの大規模事業のリリースを市政記者クラブや科学記者クラブなどに効果的に発信するとともに、展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援も行う。

## 7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組むとともに、春休み、ゴールデンウィーク等の定例休館日の臨時開館、関西文化の日の実施等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。ホスピタリティ面では、長居公園において開館40周年を迎えるため、長居植物園と連携をさらに強化し、受付案内・各種行事の共催等今まで以上にサービスの向上に取り組む。

## 8. 施設の維持管理

警備・券売・清掃を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。

設備等の保守点検については、今まで設備毎に業務委託していたが、本年度より一括して設備管理の業務委託をして、改善を図る。

## IV. 大阪市立美術館事業

大阪における「文化と美術の情報拠点」として魅力のある総合美術館をめざすために、平成26年度については、吉野・大峰、熊野三山、高野山の紀伊山地に関する特別展「山の神仏」をはじめとする6本の特別展を開催する。また、所蔵品・寄託品によるコレクション展（平常展）では、より美しくよりわかりやすい展示となるように工夫を凝らし開催する。こうした展覧会の展示や講演・講座の開催、近鉄文化サロンや「あべのハルカス美術館」との連携などを通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、学習支援とともに美術に対する関心を高めて、来館者の増加を図る。一方で、様々な展覧会や講演会・講座・論考などのために作品の調査・研究を行い、より一層のホームページの充実を図るとともに、新たな美術情報の発信を行う。また、作品の収集・保管・貸出をはじめ、施設と設備の維持管理にも万全を期す。

### 1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈等による館蔵品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努める。また、それらを適切に保存・管理するための収蔵環境や、照明・展示ケースなどの展示環境を整えて作品を適切に収蔵する。あわせて、コレクション展（平常展）や特別展・特別陳列などで展覧するとともに、貸出しによる他館の展覧会への出品や、他の研究機関などへの観覧に供する。

### 2. 展示事業

国宝、重要文化財の勸告承認出品館及び公開承認施設として、館蔵品や寄託品等の作品をより広く市民の方々に展覧することに努める。そのため、一定のテーマによるコレクション展（平常展）の開催、館独自の企画に基づいて特別に所有者から作品を借用する大規模な特別展の開催、他の共催者と開催する多様な内容の特別展の誘致などに努める。これらの展示事業を通じて、市民文化や情操・教養の向上とともに、学術の発展に寄与することを目指す。

#### (1) コレクション展（平常展）

市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高めるため、館蔵品と寄託品から構成されるコレクション展を開催する。コレクション展は、当美術館活動の根幹と位置づけ、ホームページ等による広報をさらに充実する。

また、さまざまな小テーマを設定し、日本や中国の美術の楽しさを実感できるような展示を行う。あわせて、最新の学術的知見を反映させる。

#### (2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、特別展を開催する。館蔵品や寄託品を用いたり、全国の寺社や国内外の美術館、博物館、個人所蔵の作品を特別に借用する大規模な自主企画の特別展を開催したり、全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致する。

- ① 「紀伊山地の霊場と参詣道世界遺産登録10周年記念 山の神かみほとけ仏 吉野・熊野・高野」

[平成 26 年 4 月 8 日 (火) ~6 月 1 日 (日)]

吉野・大峰、熊野三山、高野山の三霊場を巡る「参詣道」の世界遺産登録 10 周年を記念して開催する本展では、三霊場の社寺が所蔵する絵画や彫刻を中心に、篤い信仰を集める「神と仏」のすがたを一堂に展示する。

②「第 60 回全関西美術展」 [平成 26 年 6 月 24 日 (火) ~7 月 6 日 (日)]

大阪の芸術振興を図るため、昭和 16 年に「大阪市展」として発足した日本画・洋画・彫刻・工芸・書の 5 部門の公募展で、入選作品と招待作家の作品をあわせて展示。

③「こども展 名画にみるこどもと画家の絆」

[平成 26 年 7 月 19 日 (土) ~10 月 13 日 (月・祝)]

コロージャルソー、印象派を代表するモネ、ルノワールから、20 世紀のマティス、ピカソ、フジタまで、時代や流派も様々な画家達が、友人や自身のこどもを描いた作品約 70 点を展示する。

④「うたものがたりのデザイン ―日本工芸にみる《優雅》の伝統一」

[平成 26 年 10 月 28 日 (火) ~12 月 7 日 (日)]

料紙装飾・蒔絵調度・小袖、鏡や刀装具、陶磁器などを中心に、文芸意匠の系譜を見ながら、日本工芸に表れた優雅な造形を通して、日本文化のすばらしさを紹介する。

⑤特別陳列「田万コレクション 東洋美術 Part1」

[平成 27 年 1 月 10 日 (土) ~2 月 8 日 (日)]

昭和 55 年に 政治家・弁護士として大阪で活躍した田万清臣きよおみ氏が収集した、仏教美術・近世絵画などのコレクションを明子夫人から大阪市立美術館に 615 点の寄贈を受けた。

今回は、近世絵画を中心に作品群を展覧する。

⑥「第 46 回日展」 [平成 27 年 2 月 21 日 (土) ~3 月 22 日 (日)]

大阪に春を告げる毎年開催の伝統ある現代美術の総合公募展で、日展の大家作家による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の 4 府県の地元作家入選作品もあわせて展示。

### 3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動の実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携を行って独自企画の展覧会を実現させ、講演会・シンポジウムなどを開催するとともに、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などに論文やエッセイなどを掲載する。

また、平成 25 年度に科学研究費助成の申請対象研究機関として指定を受け、外部資金を活用しながら研究を進め、その成果を積極的に発表し、今後のさらなる学術発展に寄与する。

### 4. 教育・普及事業

大学との連携事業として博物館学の実習生の受け入れや将来学芸員を目指す大学院生を対象としてインターン（研修生）研修を実施し、あわせて教職員などへの研修も実施する。また、美術の鑑賞学習などの学校行事にも学芸員が対応し、教員からの美術教育への相談に応じながら、児童・生徒に美術に関する充実した学習の機会を提供するとともに教職員研修等も

実施する。さらに、小中学生や市民を対象とした絵画制作などの体験学習会「美術館へ行く」を春・夏・冬にそれぞれ開催する。

## 5. 学校・市民等との連携

各種市民団体の見学会の誘致や作品解説等を行ない、市民が美術により広く触れる機会を提供するほか、各種団体との協働に努め、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な検討と実践に努める。また、天王寺区役所、浪速区役所や新世界地域の団体と連携した、コンサート等のイベントを開催し、地域との協働に努める。

大坂の陣400年関連事業として、茶臼山を舞台とした「大坂冬の陣・夏の陣」の各種イベントを天王寺動植物公園や天王寺区役所と連携し取り組んでいく。

また、100周年を迎える天王寺動物園、新世界・通天閣エリア一帯の魅力創出事業として開催される各種事業を天王寺動植物公園や地元各種団体と連携し取り組んでいく。

## 6. 情報発信・広報宣伝

美術館情報を掲載しているホームページを平成25年4月にリニューアルしたが、今年度は、学芸員による展覧会の見所や最新の情報等を分かり易く掲載し、より多くの人々が美術館に興味や親しみを抱くよう、情報発信力を強化する。また、展覧会スケジュールや特別展・コレクション展(平常展)の情報を掲載した広報誌「美をつくし」を、年2回(3月、9月)発行するとともに、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社への情報提供を通じて、新聞・雑誌などの媒体で広く広報・宣伝活動を行う。こうした活動を積極的に展開し、広く市民をはじめとする利用者に対して美術館概要、利用案内、展覧会の内容、館蔵品の紹介などに努める。

また、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールしていく。

## 7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内サインや館内のサイン表示の改善をはじめ、展示品のわかりやすい説明など観覧者にやさしい環境作りを行う。また、ご意見箱や受付窓口寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員が共有することにより、市民の生の声を的確に美術館活動に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

## 8. 施設と設備の維持管理

施設と設備の補修は、限られた予算を有効に活用しながら、効果的な予算執行に努める。

また、作品の保護と保全に関する空調などの整備と能力の維持・向上はもとより、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう常に施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持に努める。さらに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全で快適

な施設の維持管理に努める。

#### 9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と、友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室「日曜洋画会」などの事業の双方を協会の自主事業と位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。



## V. 大阪市立東洋陶磁美術館事業

東洋陶磁美術館は、大阪市が世界に誇る「安宅コレクション」「李秉昌コレクション」などの東アジアの陶磁器コレクションを収蔵・展示する陶磁器専門美術館である。優れた館蔵品による平常展示を、より多くの市民に紹介することによって、東洋陶磁の魅力をアピールし、市民の文化や教養の向上に寄与することに努めている。また、市民からの要望が高い分野の美術工芸品を紹介することにより、陶磁器愛好家にとどまらない利用者層の拡大もめざしており、平成26年度は東アジアのやきものに描かれる蓮の文様に焦点をあて、館蔵品と現代写真家・六田知弘氏の写真により、蓮の新たな魅力を紹介する特別企画展を開催する。さらに、日本初公開となる当館所蔵の輸出用伊万里を中心に、サントリー美術館や佐賀県立九州陶磁文化館の所蔵品を加えたヨーロッパ輸出用伊万里の特別展も開催する。これらの事業を広報普及活動により積極的に情報発信し、広く市民に周知する。

### 1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入に努める。

東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

また、常駐警備及び厳重な保管設備により作品の安全性を確保する。

### 2. 展示事業

#### (1) 平常展(常設展)

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、<sup>イ・ボンチン</sup>李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約300点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約100点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

また、平常展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催する。

#### ① 「高田コレクション ペルシアの陶器—オリエントの輝き」

[平成26年4月12日(土)～7月27日(日)]

高田コレクションのペルシア陶器約20点を展示し、その多彩な魅力を紹介する。

#### ② 「李秉昌コレクション 朝鮮時代の磁器」

[平成26年8月16日(土)～11月30日(日)]

朝鮮時代の磁器の装飾の魅力を、李秉昌コレクションの作品約20点により紹介する。

#### (2) 特別企画展

特別企画展「蓮—清らかな東アジアのやきもの×写真家・<sup>むだともひろ</sup>六田知弘の眼」

[平成 26 年 4 月 12 日(土)～7 月 27 日(日)]

東アジアのやきものに描かれる蓮の文様に焦点をあて、その清らかな美しさと、そこに託された庶民的な願いを館蔵品約 60 点によって紹介する。そして今回とくに、「祈りの空間、祈りのかたち」をキーワードに古美術や古建築などの撮影で活躍中の写真家・六田知弘氏が長年撮り続けてきた蓮の写真、約 40 点を併せて展示し、東洋のやきものと現代写真家の作品の両面から、蓮の魅力に迫る。

### (3) 特別展

特別展「IMARI／伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」

[平成 26 年 8 月 16(土)～11 月 30 日(日)]

17 世紀初頭、肥前国ひぜんのくに(現在の佐賀県、長崎県)の有田一帯において、日本で最初につくられた磁器は、「伊万里」の名で知られている。伊万里は 17 世紀中頃からオランダ東インド会社 (VOC) によりヨーロッパなど海外に輸出された。ヨーロッパ向けに輸出された伊万里には、特別の注文によってヨーロッパ風にアレンジされた作品も多く見られ、往時のヨーロッパの華やかな生活文化の一端をしのぶことができる。

本展では、日本初公開となる当館所蔵の輸出用伊万里を中心に、サントリー美術館や佐賀県立九州陶磁文化館の所蔵品を加えた約 190 作品により、ヨーロッパの宮殿を飾った IMARI／伊万里の魅力を紹介する。

## 3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、科学研究費等の外部資金の活用も含め、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

## 4. 教育・普及事業

### (1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解促進や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 特別展などにおける外部講師による講演会の開催
- ② 講座、レクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族藝術学会などとの提携による研究会などの開催

### (2) ボランティアによるガイド事業

常設展、企画展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行う。平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

## 5. 各種団体との連携

協会が運営する各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。また、周辺各施設と連携し、中之島地域の活性化に協力する。

## 6. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知させる。

グーグルアートなどとの提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信する。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

## 7. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによるギャラリーガイドなど、サービスの向上に努める。

## 8. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。

なお、平成26年12月1日(月)から平成27年3月31日(火)まで、外壁改修工事のため休館する。

## 9. その他事業

### (1) 出版等事業

展覧会図録、館蔵品図録、関連書籍、ミュージアムグッズなどの製作・販売を行う。

### (2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学術交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。

## VI. 大阪城天守閣事業

平成 26 年は、全国的にも注目を集めている「大坂の陣 400 年」の 1 年目にあたる。本年度は大坂の陣に対する市民の関心を高めるために、今秋に「浪人たちの大坂の陣（仮称）」、来春には「豊臣と徳川と大坂の陣（仮称）」のテーマで『大坂の陣 400 年記念特別展』を開催する。さらに、大坂の陣・大阪城に対する関心を絶やさぬよう、独自の様々な関連グッズの開発やポスターなどで広く周知活動を行いつつ、テレビや新聞などのメディアと協力しながら各種事業を展開する。

また、平成 26 年の大河ドラマは豊臣秀吉の軍師として活躍した黒田官兵衛を主人公にした「軍師官兵衛」であることから、こちらの視点からも大阪城天守閣が注目されることが予想される。この機会をとらえて、黒田官兵衛にまつわる資料の展示や試着体験コーナーの黒田官兵衛所用兜などをおして市民の関心にこたえていく。

上記のように、本年度は「大坂の陣 400 年」と「官兵衛」をキーワードとして幅広く効果的な広報宣伝事業を展開するとともに、重要文化財の櫓公開をはじめ、ゴールデンウィークや秋には天守閣前でステージイベントなども行ない集客を図る。なお展覧会やイベントは、『大坂の陣 400 年天下一祭』参加事業として実施していく。

### 1. 資料の収集、保管事業

豊臣時代歴史資料や大阪城関連資料、武器武具参考資料、大阪郷土資料について、収集及び寄託品増に努め、また展示用複製資料を作成する。収蔵庫および展示ケース内の温湿度や空気環境を良好に保ち、収蔵庫内防疫により資料の保全を図る。損傷のある収蔵品については専門機関に依頼して修復を施す。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

大阪城天守閣収蔵品で構成する常設展示については、「豊臣時代」「大阪城」「武器武具」「郷土史」の四つのテーマを基本にして、2 ヶ月を目途に文化財展示を全面的に更新する。そのつど 3 階・4 階の各フロアごとに、新しいテーマの展示を立案する。

#### (2) 特別展

大坂の陣 400 年記念特別展「浪人たちの大坂の陣（仮称）」

〔平成 26 年 10 月 11 日（土）～11 月 24 日（月・振休）〕

豊臣家・徳川家が対決した大坂の陣（1614・15 年）では、各地から浪人が大坂城の豊臣秀頼のもとに参じ、予想をはるかに超える彼らの活躍が徳川軍を苦しめた。「浪人」といえば、あるじを失った日陰者の武士で、体制に不満を持つ反社会分子のようにみなされがちだが、彼らは本当にそのような存在だったのか。徳川への憎しみ、豊臣への忠誠心に駆り立てられて戦った、といわれているのは本当だろうか。

戦国時代、主君を変えたりみずから主家を離れ浪人になったりする武士はたくさんいた。

だがそれは決して非道徳的なことでも後ろめたいことでもなく、流動的な社会における自立性の高さを示すものであり、その自立性こそが乱世に活力を与えていたといっても過言ではない。大坂の陣において浪人たちは、戦国最後の内戦の場で「乱世の活力」を解き放ち、歴史に名を残したのである。

本展では大坂の陣を戦った有名無名の浪人の動向に注目し、多彩な資料を用いて彼らの活力あふれる生きざまに迫りたい。あわせて浪人をめぐる幕府の諸政策、残された家族や子孫などの動きにも注目し、当時の社会状況を浮き彫りにすることをめざしたい。

#### 大坂の陣 400 年記念特別展「豊臣と徳川と大坂の陣（仮称）」

[平成 27 年 3 月 21 日（土・祝）～5 月 6 日（水・振休）]

豊臣と徳川の最終決戦となった大坂の陣の背景には、秀吉生前以来の両家の長い関係史が存在する。本展ではそうした歴史にも目をくばりつつ、当時の一級資料によって大坂の陣の意義をさぐり、合戦の様相を再現する。

### (3) テーマ展

「乱世からの手紙—大阪城天守閣収蔵古文書選—」

[平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）～5 月 6 日（火・振休）]

戦国時代のことを知り、実感するうえで不可欠の素材が古文書である。とくに武将たちが出した文書からは、彼らの戦略や心情、生活、風習など、さまざまな情報が読みとれる。

本展では、この分野のコレクションとしてトップクラスの質を誇る大阪城天守閣の収蔵品から逸品を選び、読めば読むほどおもしろい古文書の魅力をわかりやすく伝える。

## 3. 調査・研究事業

「豊臣時代資料・史跡調査」および「徳川時代大坂城関係史料調査」を実施するほか、収蔵品や関連テーマについて、個別あるいは他の研究機関と連携して調査・研究を進める。

それらの成果を『大阪城天守閣紀要』・『徳川時代大坂城関係史料集』等を作成・刊行することにより公表する。

## 4. 普及事業

### (1) 教育普及

講演会・シンポジウム・史跡見学会等において歴史や資料に関する知識の普及を図る。

また市内の小・中学校等と連携して「大阪城写生画展」を開催する。

自主事業として、館内に兜・陣羽織（レプリカ）の試着体験コーナーを充実し、希望者に体験の機会を提供する。

### (2) 資料の活用・普及

収蔵品図録や展覧会図録、名品絵はがき、館蔵品目録、大阪城の案内書等を作成し、頒

布する。また収蔵品や関連資料の写真を作成管理し、公共機関や研究者、出版・放送関係機関その他からの掲載や複製作成・商品化の要望に応じ積極的に提供することで、資料の普及に努める。

他の博物館施設等からの資料貸出依頼に応じるだけでなく、展覧会の企画や展示指導等についても協力し、天守閣資料の普及を図る。

## 5. 史跡の活用・普及事業

### (1) 文化集客イベント

重要文化財に指定されている城内古建造物の特別公開を行うほか、訪れた人々が大阪城や大阪の歴史・文化を身近に感じていただけるようなイベントを、自主事業として季節ごとに開催することで大阪城の魅力を高め、集客につなげる。

26年度は大坂の陣400年に相応しい内容の季節ごとの集客イベントを開催する。

- ・ 春イベント大阪城ファミリーフェスティバル（5月）
- ・ 夏イベント「天守閣の夏」（7月）
- ・ 秋イベント 重要文化財「櫓・金蔵」特別公開（10月）
- ・ 秋イベント 大阪城秋まつりステージイベント（11月）
- ・ 迎春イベント（1月）

### (2) 姉妹城・友好城郭連携事業

大阪城とゆかりの深い姉妹城（長浜城・和歌山城）や友好城郭（上田城・エッゲンベルグ城）と連携しつつ展覧会等の共同事業を展開し、相互に史跡の活用および宣伝普及を図る。

平成26年の大河ドラマ「軍師官兵衛」の主人公である黒田官兵衛は豊臣秀吉の軍師として活躍した人物であり、長浜城歴史博物館のある長浜市は黒田家発祥の地とされる。

今年度は大河ドラマの効果で黒田官兵衛や豊臣秀吉への関心が高まることが予想され、今年度も長浜城歴史博物館と共同で事業を展開する。

### (3) その他

本年は大坂冬の陣から400年の年にあたり、「大坂の陣400年」の1年目として、のぼり・バナーの設置や上記の文化集客イベントの拡充、姉妹城・友好城郭との連携などに努めるとともに、大阪市や民間事業者などとも連携を強めて各種事業を展開する。

## 6. 情報発信・広報宣伝

社会・経済状況の変化により、昨年の訪日外国人旅行客数が1千万人を突破し、大阪城天守閣も外国人観光客が増加する中、大坂の陣400年の節目の年を迎え、大阪を代表する施設にふさわしい特別展、テーマ展及びイベント等を実施するとともに、ホームページ・ポスター・チラシ・マスメディア等を通して、幅広い効果的な情報発信・広報宣伝を行うことにより、一層の集客力の向上に向け努力する。

## 7. 来館者サービスの向上

改札・インフォメーションにおける外国語対応及び音声ガイドシステムの拡充並びにリーフレット、館内サイン、文化財展示解説などの外国語表記に取り組み、館内案内の充実を図る。

## 8. 施設の維持管理

改札・案内・警備・清掃・昇降機の運転業務を実施するとともに設備等の定期的な保守点検を実施し安全で快適な施設の維持管理に努める。

## 9. 大阪城天守閣売店の運営

天守閣売店では、商品についてホームページを活用し、季節ごとの売れ筋商品を紹介する等広報活動を充実させるとともに季節に応じたディスプレイを行い、来館者の増加並びに、収入の確保に努める。

## VII. 法人の連携事業

大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪城天守閣に大阪文化財研究所を加えた当法人の事業の中で、協会内および関係機関・団体や大学等との連携を積極的に展開するとともに、今後の連携事業について検討を進める。

特に平成 26 年度については、「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育支援」について具体的な取組みを進めるとともに、今後の「協会の広報機能」について検討を進める。

### 1. 「大坂の陣 400 年天下一祭」と博物館施設連携による展覧会等のとりくみ

平成 22 年度以降、協会内の博物館施設連携による展覧会に毎年取組んできたが、平成 25 年度は指定管理期間 4 年間の集大成として 10 月 29 日から 12 月 8 日に大阪市立美術館において、特別展「再発見！大阪の至宝－コレクターたちが愛したたからもの－」を、協会の 5 館 1 所と新美術館準備室等の連携で開催した。

平成 26・27 年の 2 年間、府市や府下市町村において「大坂の陣 400 年天下一祭」が開催されるが、協会としても「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する」機会として積極的に参画し、博物館施設連携による展覧会や他機関・団体との連携による各種事業を実施する。

### 2. 学校等との連携

大学との連携については、昨年度に引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づき、市民向け講演会の開催、博物館学講座（授業）を通じた連携、大学教官との共同研究などに取組む。また、キャンパスメンバーズ制度については利用促進を図るとともに、今後のあり方についても検討する。

小・中学校との連携については、新たに作成する広報チラシを活用して校園長会や教育研究会への積極的な広報の展開を図るとともに、教育委員会や教育センターとの連携を深める。「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育支援」を推進するため、各館・所の取組みを共有し、夏休み期間中に教職員をターゲットとするモデル事業「(仮称) 教員のためのミュージアムガイド」を実施する。また、平成 25 年度に市立美術館が「再発見！大阪の至宝」において実施した、学芸員による小中学生への展示解説に引き続き取組む。

大阪市立科学館を運営する（公財）大阪科学振興協会等との連携については、講座の共催や博物館運営情報の交換などについてより一層の連携を図り、今後の連携のあり方について検討する。

### 3. 法人の広報事業等

各館・所の広報活動を支援するため、平成 25 年度当初にリニューアルした協会ホームページの運営については、より一層各館・所のホームページと連携し、各種情報の発信を充実させる。また、各館・所の広報担当者会議を開催し、今後の「協会の広報機能」のあり



方を検討するとともに、大阪観光局をはじめ民間事業者等との連携による広報活動の強化を図る。

#### 4. 点検評価

各館による自己評価をもとに事業の成果と課題を幅広い見地から確認する「外部評価委員会」を平成22年度から3年間開催してきたが、平成26年度は、平成24年度に実施した総合評価の措置状況を把握するとともに、これを踏まえた外部委員による事業の点検評価を実施し結果を公表する。

#### 5. 共同広報事業・共同キャンペーン

当協会の5館・1所に大阪市立科学館や天王寺動物園等の施設を加えた「てくてくミュージアム」グループとして、ポスター・ニュース・ガイドなどの紙媒体およびWebなどによる共同広報を引き続き展開する。より一層共同広報活動を充実させるためにプロポーザルを実施するとともに、改めて民間事業者等との連携を強化する。

また共同キャンペーンとしては、市民が各施設を回遊しそれぞれの新たな魅力を発見してもらう「ミュージアムウィークス」を実施し、入館者に対し満足度調査を実施する。

#### 6. 普及啓発事業

「てくてくミュージアム」グループの強みを活かして、ひとつのテーマを違う専門的立場からアプローチする市民向け「ミュージアム連続講座」等の普及啓発事業を展開し、博物館・美術館群の魅力をアピールする。